

第 1 回「宇都宮市交通安全審議会」意見概要及び現状について

1 第 1 回交通安全審議会意見概要

【現状等に関する意見】

- ・ 交通安全対策の授業を公開して保護者に来ていただき、意識を高めるという取組を実施するなど、各小学校においては、交通安全の取組を様々な方法で工夫しながら行っていると思う。
- ・ 中学生の交通事故の減少率が 46.5% と非常に高いのは、3 年前から、市内の中学校で自転車ヘルメットを義務化したことの効果も現れているのではないと思う。
- ・ 道路交通法の改正については、各高校において、プリント配布や集会等で変更内容を伝えるなど年度当初から様々な形で周知している。
- ・ 高校を卒業して、車や原付の免許が取れるようになり、社会に出て行く訳なので、交通ルールを守ることにについては、各高校で指導を徹底していると思う。
- ・ 交通ルールやマナーについては、高校でもかなり力を入れていて、早朝や放課後などに先生が指導しているようだが、その場所を過ぎてしまえばルールを守らないという状況も見受けられる。
- ・ 自転車については、高校生の飛び出しや一時不停止が見受けられる。
- ・ 学校の校庭を借りて自転車の免許証がもらえる高齢者自転車教室を開いているが、その免許証を持っていると地元のスーパーなどで特典が受けられるため、多くの方に参加していただいております、好評である。子どものいる父兄の方からも、実施して欲しいとの声がある。
 - ⇒ 県警では、「高齢者自転車免許制度講習会」を実施しており、学校や教習所等において学科試験と実技試験を行い、受講者全員に「自転車免許証」を交付している。本市も教室の際には協力をさせて頂いている。また、併せて「昼活キャンペーン」として、「自転車免許証」を持って午後 3 時までにお店を利用すると、ポイント加算など様々な特典を受けられ、夜間の高齢者の交通事故防止を兼ねた取組も実施している。
- ・ 保育園の子どもの送迎を高齢の方が行っていることも多く、駐車場でアクセルとブレーキの踏み間違いなどの事故が起きないか、不安に思っているが、祖父母にとっては孫の送迎が生きがいで、元気の源だという話も聞くので、対応が難しく感じる。
- ・ 車の運転手で、ウィンカーを出さないで曲がる人が多い。
- ・ 地域では、自治会の会長等に危険な事例を伝え、各家庭に注意を促すようにしてもらっている。

【施策等に関する意見】

- ・ 子どもに向けての交通安全教室だけでなく、親向けにも実施すると良いのではないかと。
- ・ 交通安全教室には、保護者など、多くの方に参加してもらうことが大事だと思う。
- ・ 最近中学生がかぶっているヘルメットは、デザインの良いものもある。デザインの良いものを選べば、子どももかぶりたくなるのでは。
- ・ 高校生に対して、学校や家庭で繰り返し教育していくことが必要。
- ・ 大学生も自転車にたくさん乗るので、大学生に対しても対策が必要。
- ・ 大学生で免許を取らない人が増えてきているので、免許更新等の機会がない人も交通ルールが学べるよう社会人に対しても交通安全教育が必要だと思う。
- ・ これまでも高齢者に対する交通安全対策は課題だったが、今後更に高齢化は進むので、第10次交通安全計画の大きな目玉の一つとして、取り上げていかねばならない。
- ・ 「高齢者自転車免許制度講習会」を実施していることを、PRしていくことが必要。
- ・ LRTやバスなどの公共交通、地域内交通により、車を使わなくても今まで通りの生活ができるような社会にしていく必要がある。
- ・ 免許を返納しても困らない上、タクシーやバスの割引など、返納することによるメリットを考えていく必要があるのかもしれない。
 - ⇒ 本市では、高齢者外出支援事業として70歳以上の市民を対象として年度内に1回特定バスカード等（市内バス3社共通カード・地域内交通回数券）5000円相当が1000円で購入できるよう助成しており、この事業と連携して運転免許証の自主返納制度の周知を行っている。また、県タクシー協会が免許返納者に対して運賃の1割を割引する制度を実施している。
- ・ 朝は若い人が出勤のため元気よく走っているので、高齢者は急用でもない限りは、できるだけ10時過ぎに出かけるなど、時間帯をずらして外出していただけると安全だ。
- ・ 国・県・市においてそれぞれ第10次交通安全計画をつくっていくが、その三者の連携や整合については是非重視していただきたい。
- ・ 県の方で高齢者にヘルメットを配布する取組は、栃木県、宇都宮市が他の県より先にいっていると思うので、そういった県らしさ、宇都宮らしさを反映するような計画にできればと考えている。

【問題意識・分析等に関する意見】

- ・ 若者の事故について、実際には免許や車を持っていない学生など、若者の中でも運転しない人が増えてきているので、母数をどうするか、比較対象をしっかりと見定めないといけない。
- ・ 現状としては、老人クラブへの加入者が少なくなっており、そこに入っていない高齢者の交通安全対策を考えていかななくてはならないと思う。
 - ⇒ 本市では、民生委員の協力をいただいて「高齢者戸別訪問事業」を実施し、地

域の活動に参加する機会の少ない方に対し、交通安全などの情報を提供し高齢者の交通安全意識の向上を図っている。また、県警においても、高齢者の居住実態等に詳しいボランティアにより高齢者世帯を個別訪問し、交通事故防止及び特殊詐欺被害防止等のアドバイスを行う「高齢者交通安全等アドバイザー事業」を実施している。

- ・ 生活行動実態調査で、高齢者のトリップ数が非常に増えているというデータがあるが、外に出れば事故に遭う機会も増えるので、今後ますます課題になってくると思う。
- ・ 高齢者と若い人とは、ウインカーを出さない原因が異なるかもしれない。高齢者は出すことを忘れてしまうが、若い人はマナーが悪いなど、同じ行為であっても、年齢層によって違うのではないか。
- ・ 行政に任せきりではなく、実際に地域で利用している市民がまわって安全点検をやり、ここを何とかならないのかなどと具体的に発言していただくことが大切だと思う。
- ・ この先LRTや地域内交通などの推進にあたり、若い方から高齢者までを対象として、しっかりと交通安全教育を行っていかなくてはならず、やるべきことは山積みだと再認識した。